

☆学習課題：日本の気候は世界と比べてどのような特色が見られるのだろうか。また、日本の中では地域によってどのような気候の違いが見られるのだろうか。

☆学習活動

教科書 P150～151

STEP①：教科書 P150 資料4 アテネ、東京、ロンドンの雨温図を読み取りましょう。  
教科書 P150 資料1 でアテネ、東京、ロンドンの位置を確認しましょう。

例

アテネ：年平均気温が高い。年降水量が少ない。夏にほとんど雨が降らない。

東京：年降水量が多い。冬の降水量が少ない。

ロンドン：年平均気温が低い。年間の降水量が一定

STEP②：教科書 P151 資料7の雨温図を読み取りましょう。各地の位置を P151 資料5で確認しましょう。

例

釧路：年平均気温が最も低い。冬は0度を下回っている。年降水量はあまり多くない。

金沢：冬の降水量が多い。

松本：一年を通して降水量が少なく、気温差が大きい。

名古屋：6月～9月の降水量が多い。

高松：一年を通して降水量は少ない。

那覇：一年を通して気温が高く、降水量が多い。

STEP③：日本海側と太平洋側で冬の気候が異なるのはなぜでしょうか。

例

乾いた冬の季節風が、暖流の対馬海流が流れる日本海を渡るときに大量の水蒸気を含み、日本海側の地域に雪や雨を降らせる。山脈を超える際に水蒸気を雨や雪として落とすため、太平洋側には乾いた風が吹き、晴れの日が続く。

☆まとめ

-----  
日本は温帯に属しているが、日本列島は南北に長いため、日本の各地でそれぞれ気候が異なっている。  
季節風の影響で日本海側に冬に降る。  
-----

☆振り返り

★最後に語句プリント（別紙）で内容をマスターしましょう★